

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 29 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 藤野寛 職位： 講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。 （分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

教育活動として、主に獣医学科の学生を対象として微生物学（ウイルス）の教育を行っている。特に獣医微生物学実習では中心的に動いており、ウイルスの取り扱い・ウイルス感染価の測定といった基本的なウイルスの実技を教育している。研究室では所属する学生の卒業論文指導やゼミを行っている。その他に獣医学科5年次の担任を受け持っている

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
獣医微生物学総論	獣医学科	必	2	140人
獣医微生物学各論 I	獣医学科	必	2	140人
獣医微生物学実習	獣医学科	必	3	140人
獣医学特論（ゼミ）	獣医学科	必	5,6	11人
総合獣医学	獣医学科	必	6	140人
卒業論文指導	獣医学科	必	6	5人
微生物学	動物応用科学科	必	2	140人

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの） （分量の目安：8～12行（320字～480字））

研究室での指導においては、基礎知識に基づいた正確な実験手法の習得や科学的思考に基

づいた実験・研究計画の作成が可能である様な学生が生まれることを目標としている。実際には、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に付け、ある程度研究を自分で進めることが出来るようになってほしいと考えている。また、獣医学科では進路として臨床獣医師を考えている学生が多い点から基礎的な科目である微生物学実習に身が入らない学生が毎年数名認められる。実習においてはこういった基礎科目を苦手としている学生にも基本的な微生物の取り扱いを習得し、感染症学を理解してほしいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

講義及び実習においては毎回ミニテストを実施している。特にミニテストでは国家試験の過去問題などを出題することで、臨床系以外に興味を持たないような学生も微生物学の知識が重要であることを認識してもらおうとしている。また、ミニテストの内容を毎年少しずつ変えながら出題し、最終回で内容を配布している。翌年の学生が対策資料として手に入れ、ミニテスト対策として去年度の資料を勉強することでより理解を深めてもらうことを目的としている。また、研究室の指導では定期的に学生の手法を確認し、間違った手法が広まっていないかを確認している。卒論をすすめる際には大卒のゴールを設定し、それに至るための解析方法や考え方を話した後に、具体的な手法を学生に提案してもらいすすめるようにしている。特に条件検討などは学部学生には負担が大きいですが、単にこちらの出した条件で実験するのではなく、一つ一つの実験で学生に考えてもらい、自分の時間を使って自分で考えた実験系を進めさせるようにしている。

アクティブラーニングについての取組

獣医学科ではコア・カリキュラムに沿って時間内に必要な事項を学生に伝達する必要があるため、学生による討論や積極的なやり取りを多く取り入れることは難しいと考えている。現在のところは定期的に学生に質問する等の方法で緊張感を保ってもらう等を実施している。

ICTの教育への活用

2020年度～2021年度はコロナ感染症対策の一環として多くの時間をオンライン講義で実

施した。本年度を含めて 2022 年度以降は基本的に対面で実施し、一部をオンデマンドで配信している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（B）

⑤双方向授業への工夫（C）

理解度の把握においてはミニテストの実施や実習では部屋を回りながら学生の動きを見て引っかかっている所を確認できた場合は適時指示をしている。自主学习を促すための工夫としては前述のようにミニテストの資料を配布することで、翌年度の学生が対策資料として手に入れた前年度ミニテストを勉強することに期待している。また、それら自主学习を促すために、定期試験よりも早い段階で一度中間での配布を行っている。これまでの学生は部活動や様々なコミュニティを介して情報を得ていたが、コロナ以降はそのような情報収集手段が断たれたために、情報収集が十分ではない学生が増えてきている可能性があるのではないかと考え、今後も最終回にこだわらず、適時資料を配布していく予定である。学生とのコミュニケーション・質問への対応としては一般的な講義・実習後の質問受付やメールでの対応を行っている。双方向授業への工夫は現在特に取り組んでいる点がない。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

前述のように国家試験対策としては定期的にミニテスト内に国家試験の問題を出すようにしている。特に実習科目では直接的に国家試験に影響しないのではないかと考える学生が多いと考えられるので、そういった学生向けに実際に今行っている作業が画像問題などで出題されることを示すことによって実習へのモチベーションが少しでも高まるのではないかと期待している。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業評価では板書が読みにくいとの指摘があったため、板書でなくスライドに移行した。また講義スライドを配布してほしいとの要望があった。すべての情報を事前に公表した場合、事故につながるような重要な注意点を聞き逃す可能性が考えられたため、要所所で空欄にし、説明を聞いてもらいながら記入させる方式をとった。

② ①の結果はどうでしたか。

スライドを映して、その中で書き込みをした。あるいはスライド上で文字を表示させる等の方法で板書以外の提示法を実施した。これにより板書に関する問題はなくなった。事前に配布することで、重要なところは写し書きながら、余裕をもって講義に参加させることが出来た。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

スライド表示に関する問題では赤色の文字を用いて強調を示していたが、一部の学生から色覚障害の場合に赤色での強調は見にくいと指摘があった。今年度途中から実施していたが、来年度も同様に、強調部分は単に赤色だけでなく下線を引くなども加えることで色覚障害の学生にも内容が伝わるように配慮する。来年度も継続して資料配布のタイミングや内容に関して検討を続ける。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

ミニテストを行っている。また、ミニテスト資料を学生間で回らせることで事前に手に入れた資料により勉強するように促している。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

特になし

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

参加できなかったFD研究会に関しては後日のオンデマンド配信を受講する等、積極的に参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安：3～6行(120字～240字))

講義や実習に関しては国家試験合格率の向上と感染症に関わる必要な知識を身に着けた獣医師の育成を目的としている。研究室での教育に関しては前述の通り、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るような学生の育成を目標としている。また、実験を行うだけでなく、発表面に関しても研究概要のまとめ方や提示する際のレイアウトを調整するといった訓練も兼ねて、卒業までに学会などの外部での発表を行わせることを目標としている。短期的には研究室から出す論文数の増加、講義で用いるミニテストの量と質の向上を目指し、長期的には研究室内の手法や機器類等、そして学生がより主体的に研究に関われるような環境を整えていく。

9. 添付資料(根拠資料)(※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

麻布大学 シラバス

麻布大学 キャンパスプラン

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡